

# つくしだより



令和7年5月号

2026年度(令和8年度)

東京つくし会の東京都予算要望  
について 各家族会で議論を

都連副会長 植松 和光

2026年度予算については、昨年度要望項目を基本に内容を見直し  
今回素案を提案します。

6月中旬までに検討、提出を！

この要望内容の修正や追加等を是非  
よろしく願います。

1 アウトリーチ(積極的訪問医療)

で早期発見・早期治療を促進し、未  
診療、治療・服薬中断、再入院を回  
避し、精神科医療に繋げること。

アウトリーチ事業実施区市を増や  
すため、都の補助金を増額するなど  
して区市町村の当該事業への人員・  
予算の拡充を図ること。

都立総合精神保健福祉センター

は、区市町村と各保健所が実施する  
アウトリーチ事業を促進するための  
技術的支援・研修事業を行うこと。

2 精神科医療の適切な提供について

(1)慢性期の身体合併症患者を治療  
することができる都立病院を中心と  
した病床整備を早急に行うこと。慢  
性期維持透析治療が必要な患者に他  
の医療機関への外来受診による費用  
を支援する事業の利用促進を図ること。

と。

(2)セカンドオピニオンや転院につ  
いて個別の相談機関を設置するこ  
と。また入院者のうち身寄りがない

者、または受け入れ先が家族しかな  
いが、家族が受け入れることが困難  
な者に対して、退院に向けての総合  
的支援の相談窓口を設置すること。

(3)本人が処遇改善や退院請求でき  
る精神医療審査会の機能強化。

(4)精神科病院における虐待防止の  
徹底を図るため、都において無通告  
立ち入り検査を励行すること。

(5)非自発的入院・身体拘束を可能  
な限り回避すること。そのため心理  
社会療法が励行されるよう、国に診  
療報酬の見直しを求めること。

3 精神科緊急医療体制の整備

(1)措置入院

措置入院診察後、措置が不要になっ  
た場合の支援の充実

(2)常時対応型の精神科病院の拡充

措置入院以外での緊急を要する患者  
の受け入れ体制の整備。特に緊急時  
体制を早急に確立すること。

4 精神疾患の早期発見・早期治療

(1)当事者や家族、学校の先生が発症  
とその対処法を知ることが出来るよ  
う、公立学校(特に発症時期と重な

る小学校・中学校)で、理解を促進

する授業や啓発活動を実施すること。  
(2)都民に対して、精神疾患全般につ  
いての理解・啓発活動を進めること。

また、都職員の精神疾患に対する理  
解促進を図ること。

(3)具体的な相談先を挙げて、周知徹  
を図ること(例:「調布市こころの健  
康支援センター」等)

5 精神障がい者にも福祉手当を支  
給すること。

6 重度心身障害者医療費助成制度  
を精神障害者保健福祉手帳2級所持  
者も対象にすること。

7 家族会活動への支援

家族会は精神疾患に悩む当事者と  
家族の心の総合相談窓口です(年間  
約1600件の相談を受け付け)。

また、精神疾患の正しい理解のため  
の普及啓発活動等の公的な業務を積  
極的に行っており、行政の補完的な  
組織です。にも拘わらず、活動は、

会員の会費によって運営され、不安  
定な状況です。全国精神保健福祉会  
連合会の関東ブロックに所属してい

る6県では、全て精神保健福祉セン  
ターのような公的施設を利用してお  
り、都においても他県と同様の措置  
を講じられるようお願いいたします。

“誰ひとり取り残さない精神科医療”  
東京都立松沢病院院長 布村 明彦  
就任あいさつ



皆様はじめまして。2025年4月に東京都立松沢病院 第二十代院長に就任いたしました布村 明彦（ぬのむら あきひこ）と申します。

松沢病院の歴史は1879年（明治12年）に創立された東京府癲狂院に始まるとされ、松沢病院はわが国に現存する最古の公立精神科病院です。現在では、「大都市東京を医療で支える」という理念のもとに2022年7月に設立された地方独立行政法人 東京都立病院機構の一翼を担い、都民のための精神科医療センターと位置付けられています。

広く国内外を見渡せば、相次ぐ気候変動や甚大な災害、終わりの見えない国際紛争など、目を背けることができない現実があり、われわれの日常に重苦しい影を落としています。

精神の病を患う方々にはそれらがさらに大きな重圧となっていることは想像に難くありません。今後一層厳しさを増すと思われるこの時代にこそ、個々の力は小さくても、われわれがいかに結束して与えられた使命を果たすことができるかが問われている、と感じられます。

松沢病院の最も重要な使命は、「誰ひとり取り残さない精神科医療の提供」にあります。言葉を変えて申しますと、東京都における「精神科医療の最後の砦」としての機能を堅持することです。これを当院の理念に掲げ、理念の実現に向けた目標・方向性を示す以下の5つの基本方針に沿って誠心誠意尽力いたします。

- 都民のための精神科医療センターとしての役割を果たします
- 質の高い精神科及び身体科医療を提供します
- 患者中心の医療・看護を実現します
- 社会に開かれた医療を行います
- 地域住民に親しまれる病院をめざします

以前からすでにその必要性は指摘されていながら、いまだ十分に満たされていない精

神科医療上の課題として、精神科身体合併症医療、思春期・青年期精神科医療、アルコール等依存症医療、認知症をはじめとする高齢者精神科医療、などが挙げられます。精神科身体合併症医療は単科精神科病院では対応困難なことが多く、松沢病院ならではの身体科医師と精神科医師がひとつのチームとして対応する総合診療体制を一層充実させ、総合的能力を有する若手医師の育成にも注力します。その他の思春期から高齢期までの精神科医療上の諸課題にも各分野の専門医が中心となって取り組んでまいります。

最後に、精神科医療では細分化された専門分野に注力するだけではなく、地域医療やチーム医療の観点あるいは全人的医療の観点から広い視野を持つことが求められます。当院すべてのスタッフが互いを尊重しつつ活発に意見交換することはもちろんですが、家族会会員の皆様をはじめ都民の声にも耳を傾けてより良い松沢病院をつくっていきたくと考えておりますので、ご提言・ご要望をお寄せくださいますようお願いいたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

（記事担当 都連理事 寺澤元一）

## 稲城市の稲穂家族会を訪問して

都連副会長 植松 和光

稲穂家族会の定例会は毎月第三月曜日の午前中に行われております。

私が訪問した3月17日(月)も第三月曜日でした。会場は、稲城市福祉センターで京王相模原線稲城駅から徒歩約7分のところにありました。稲城駅は初めての下車でしたが迎えにきていただきましたので無事着くことができました。

交流会には11名のご家族が出席されました。高野会長の挨拶のあと、午前10時過ぎから私から次のことについてお話をさせていただきました。最初に今から約30年前に発足したシユロの会のこと、そして当事者の発症とこれまでの経過と現在の状況について。次につきし会の2024年度東京都予算に対する予算要望の内容について少し詳細に話をさせていただきます。①早期発見、早期治療で入院を防ぎ地域で暮らすことを目指すアウトリーチ(訪問医療)②精神科医療の充実③精神疾患の理解と啓発のための広報活動の充実④精神障がい者にも福祉手当の支給を⑤重度心身障がい者医療費助成を精神保健福祉手帳2級所持者も対象にする事などについてです。そして最後に希望の丘八王子病院(旧滝山病院)のことについて報

告をしました。

稲穂会でも、稲城市に是非要望をして下さいとお願いをしました。

最後に自己紹介を兼ねた当事者の現在の状況などを話し合い終了しました。私が、とても懐かしかったのは前会長の奥様が参加されていたことです。

前会長とは、色んなことで連絡を取り合っていたものですから。元気を確認できてよかったです。高野会長を始め稲穂会の皆様有難うございました。これからも元気で頑張ってください。

覚えてください

「民相連」ということば

都連副会長 本田 道子

初めてこのことばと出合う、という方も多いことでしょう。

「みんなそうれん」

略称で「民相連」

民間相談機関連絡協議会、といえます。

平成9年1997年の設立です。その設立趣旨は

地域において相談活動を行う民間の機関、団体は多数存在し、その行う領域は多岐にわたっています。

しかし、近年の社会経済情勢の変動にともない寄せられる相談内容も多様化・高度化しています。各々の相談機関だけでは解決しきれないケースも増えてきており、他の機関・団体との連携した取り組みが必要となつていきます。

そこで都内に所在し、相談活動を行っている民間相談機関・団体を中心に相互の連携を深め、ネットワーク化を図ることを目的に活動しています。

毎年7月の総会時には基調講演を行い、その他に相談員のスキルアップのための研修会も実施しております。

ここ2、3年の内容は「オープンダイアローグ」「依存症について」「ひきこもり」などに加えて「ヤングケアラー」「自分との対話の工夫」私を大切にするワーク」などなど。

日頃、相談をうけることの多い皆様にとって、プラスになることまがいなし、ですのでもこちらの会もこれからは情報をお伝えしてゆきます。場所は飯田橋、東京ボランティアセンターです。ホームページもごらんください。まずは私、本田と7月の基調講演会にご一緒しましょう。お待ちしております。

このコーナーは、家族会間やつくし会との情報交流の場です。より良い家族会活動のために皆様に役立つ場にしたいと思っています。載せたい情報を毎月 25 日までに、つくし会事務所に、メール (tsukushikai@chorus.ocn.ne.jp) または FAX (042-453-7534) でお寄せください。

**【情報提供】東京都美術館障がい者総合美術展のご案内**

【対象】精神保健福祉手帳の交付を受けている人

【出展できる作品】絵画、写真、書、造形 【開催場所】西武渋谷店 A 館

【応募方法】令和 7 年 6 月 13 日まで 【開催期間】8 月 20 日～8 月 25 日

【申込先】日本チャリティ協会 東京都障がい者総合美術展事務局

〒160-0022 新宿区新宿 1-18-12 柳田ビル 3 階

【問い合わせ先】日本チャリティ協会

電話 03-3341-0803 FAX03-3359-7964 協会のホームページ

**東京つくし会電話相談室**

理事（家族）が交代で相談に  
応じています。

**電話**

**042-457-8979**

毎週水曜日（年末年始・休）  
11:00～16:00

※当相談室は、面談による  
相談はお受けしておりませ  
ん。また、相談の内容によ  
って、別途お時間をいただ  
くこともあります。

☆ **講演会のお知らせ** ☆  
○「家族の思いと精神医療の現状  
～家族会活動と、  
精神科医療を考える」  
日時 6月12日（木）午後1時～3時  
講師 国立シユロの会会長  
植松和光氏  
主催 町田さるびあ会  
会場 せりがや会館 4階第一会議室  
町田市原町田 4-26-6  
参加費 無料  
会員以外の方は、さるびあ事務所に  
お問い合わせください。  
042-726-2031 月木 10時～15時  
○「統合失調症 治療と家族の対応」  
日時 6月14日（土）  
講師 山澤涼子先生（精神科医）  
主催 新宿フレンズ 詳細は新宿フレンズ  
HPでご確認ください。

**編集後記**

恩方病院見学会に参加しました。実は恩方病院は息子の通院している病院で、少しは知っているつもりでした。当日は寒く、風も強くつくし会の見学会世話役理事としては、果たして見学会に全員が参加してくれるか心配でしたが、が全員時刻までに集合していただきました。病院見学会は、恩方病院の方で準備をして下さり、スムーズに進みました。2班に分かれての見学会となりました。つい最近、滝山病院の見学会もありました。どこかで比べながら見学している自分に気づきます。同じ病院でありながら恩方病院の明るさを感じながら進んでいました。東京武蔵野病院に入院していた時に担当医師の変更の話があり、これからは先生は時々も病識をもって動くようになっており、転院の話をした所、自宅の近くの病院を考えましょうと、恩方病院への転院が決まりました。恩方病院は堤院長が来られて以来、漸進的な病院を目指して改革をされてきました。北側の三階の重症棟の雰囲気も以前よりも明るく、患者の皆さんも明るくなったと思いましたが、院長の前進の成果を感じ、さらなる発展を期待しての病院見学会となりました。

都連理事 大山竹彦